



15.陸の豊かさも守ろう

湘南藤沢キャンパス(SFC)が自然共生サイトに認定

慶應義塾は、環境省が発足した「生物多様性のための30by30アライアンス*」(<https://policies.env.go.jp/nature/biodiversity/30by30alliance/>)に2023年5月より加盟しています。

2025年3月、湘南藤沢キャンパス(SFC)が、環境省の2024年度後期「自然共生サイト」に認定されました。「自然共生サイト」は、生物多様性の価値を有し、事業者、民間団体・個人、地方公共団体による様々な取り組みによって、生物多様性の保全が図られている区域を国が認定する、ネイチャーポジティブの実現に向けた取り組みの一つです。自然共生サイトに認定された区域は、国立公園などの法的に設定された保護地域以外で、生物多様性を効果的かつ長期的に保全する地域(OECM)として、国際データベースに登録されます。SFC自然共生サイトは、都市化が進む湘南藤沢地域において、豊かな自然環境が残り、生物多様性が高いエリアに位置しています。SFCでは、このエリアの自然環境・生物多様性の保全およびサステナブルな地域づくり・キャンパスづくりに向けて、教育・研究機関の場としての強みを活かし、最新の技術も取り入れた先進的な取り組みを積極的に実施してきました。今回の認定は、そうした自然環境・生物多様性の保全への取り組みにより、本地域に典型的な生態系や希少な生物が保全されていることなどが評価されたものです。

また、SFCの認定に先駆けて、慶應義塾保有の学校林(慶應の森)の一つである宮城県南三陸町の志津川山林も、南三陸FSC認証林の一部として2024年10月に2024年度前期「自然共生サイト」に認定されています。慶應義塾は、全国に所有山林や国有林分収契約山林を合わせ160ヘクタール超の山林を保有しており、志津川山林は慶應の森の全体の4割を占める64ヘクタールの面積を有する最大の学校林です。南三陸地方では、絶滅危惧種に指定されているイヌワシの生息環境再生プロジェクトが進められており、志津川山林もその対象地の一つとして貢献しています。

* 「30by30アライアンス」とは、生物多様性の損失を食い止め、回復させる(ネイチャーポジティブ)というゴールに向け、2030年までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全しようとする目標です。



SFCサイト全体図

地球環境に優しい「紙で作ったアートフラワー胡蝶蘭」の生産・販売を開始

—熊本地震をきっかけに誕生した女性活躍を支援するスーパーウーマンプロジェクト—

メディアデザイン研究科(KMD)の地域みらいプロジェクトとMICOHANA株式会社(<https://micohana.jp/>)は、経済産業省九州経済産業局デザイン経営ゼミを通じて2022年8月より事業化研究を続けていた、紙で作る「スーパーフラワー」を活用し、2024年度に「アートフラワー胡蝶蘭」を商品化しました。日本の折り紙の技術を活かし、高級紙を使った花を一つひとつ手作りで作り上げることで、品質が長期間に変わらない地球環境に優しい贈り花を提供するプロジェクトです。リサイクル・リユースが可能な供給体制の構築により、生花の売れ残りや規格外品の廃棄問題を解決し、環境や社会に優しい循環を実現します。また、在宅の隙間時間を活用した生産を可能にすることで、子育て中の主婦など外出困難な方の就労機会創出にもつながります。普及啓発に向けて、この取り組みに賛同しプロジェクトに参画している株式会社キーストン(<https://www.keys.ne.jp/>)の飲食店のネットワークを活用し、開店お祝いなどでの活用を通じてさらなる改善と需要の拡大に向けた実証を開始しました。

「みなさんmiraiプロジェクト」講演会開催・慶應グッズ作成

「みなさんmiraiプロジェクト」は、「自然の中で考える生命、社会の未来—我々は何ができるのか」をテーマとして、キャンパスではできない学びを研究領域・キャンパス横断で行うプロジェクトです。

2024年5月13日、鈴木卓也氏(南三陸地域イヌワシ生息環境再生プロジェクト協議会会長兼南三陸ネイチャーセンター友の会理事)と一ノ瀬友博環境情報学部教授を招き、プロジェクトの舞台である慶應義塾の学校林志津川山林に焦点を当てたシンポジウムを開催しました。ドローンを使った撮影による森林の分析結果、そして、海と森が循環する「いのちめぐるまち」を目指す南三陸町で行われている、森を活かす取り組みについて話を伺いました。南三陸の森が、どのような森でどのようなポテンシャルを秘めているのか、理解を深める機会となりました。2024年12月9日には、齋藤暖生氏(東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林樹芸研究所長)を招き、「みんなの森の復権へ」と題した基調講演を三田キャンパスにて行いました。人々の森離れによって、生物多様性の喪失、災害リスクの増大、資源の過剰利用、モニタリングの減退といった、多くの弊害が誰にでも返ってくる危険性が示され、あるべき森との付き合い方についての提言をいただきました。

また、慶應義塾が関わる南三陸のFSC認証林の間伐材を使用したチャームを慶應グッズの試作品として作成しました。間伐材は森の循環を象徴するもので、「FSC認証マーク」をチャームの裏側につけることで、国際的な持続可能な取り組みの周知を図っています。

三田キャンパス北別館竣工

2025年3月19日、旧通信省簡易保険局庁舎跡地の再開発プロジェクトの一環として位置付けられている三田キャンパス北別館の竣工式が執り行われました。北別館の外装には、国内最高水準の日射熱除去性能を持つペアガラスを採用しており、高効率の空調機器や、人感・昼光利用センサーによる照明制御などの導入により、高い省エネルギー性能を実現しています。内装には、慶應義塾が所有する学校林の一つである宮城県南三陸町のFSC認証林・志津川山林で伐採された杉材を製材・準不燃処理し、壁材などに利用しています。北別館での木材利用によるCO₂固定量は約14トンに達しており、デザイン上の工夫により、様々なサイズの杉板や端材を無駄なく使用しています。また、靱殻やヒノキの再利用素材、再生木のデッキ、杉の間伐材を粉碎・加工したサインボードを用いるなど、持続可能な社会に資する建築として、SDGsの理念を随所に反映しています。



「志津川山林」の杉を使用したウォールアート

第36回サイエンス・カフェ「日吉の森探検」開催

自然科学研究教育センターは、科学者と一般市民が積極的なコミュニケーションを行い、自然科学に対する相互理解を得ることを目的として、年に1～2回、サイエンス・カフェを開催しています。

2024年7月20日、第36回サイエンス・カフェとして、「日吉の森探検」を開催しました。日吉キャンパスには「日吉の森」と呼ばれる豊かな自然があり、1200種を超える多様な生き物が生息しています。キャンパス内にはコナラやクヌギなどからなる雑木林が広がり、タヌキなどの動物が暮らし、カブトムシなどの昆虫も見られます。また、森には様々な植物やきのこも生育しています。参加者は、日吉キャンパスの地形や歴史、日吉の森の成り立ちや特徴についての解説を聞きながら、日吉の森を散策しました。植物、鳥、昆虫、きのこなど、いろいろな生き物の観察を通して、身近な場所にも豊かな自然環境が残されていること、そして、生き物の不思議な世界が広がっていることを体感しました。



「日吉の森探検」の様子

自然観察会開催

志木高等学校では、地域住民にキャンパスを知っていただく取り組みとして、生徒が担うインストラクターの解説を聞きながらキャンパス内を散策し、生育・棲息する動植物を観察する「自然観察会」を実施しています。インストラクターの生徒は、事前講習会に3回以上出席し、研修修了の認定を受けています。2024年5月25日の第30回には124名、9月21日の第31回には131名が参加し、インストラクターによる動植物の説明を聞きながら、スタンプラリーなどを楽しみました。



インストラクターの説明を聞く参加者

塾生会議プロジェクトの活動

塾生会議の提言を踏まえて提出された企画は、学内の審査委員会で審議され、採択されたものがプロジェクトとして稼働します。

ごみ箱改革プロジェクト

『ごみ箱改革』を起点に『持続可能な慶應義塾』を実現することを旨とし、「2050年までに慶應義塾のリサイクル率を100%にする」すなわち「ごみ箱の異物混入率を0%にし、ごみを資源として100%活用することで、慶應義塾内で資源の循環を達成する」をゴールに掲げているプロジェクトです。

2025年1月、可燃ごみとして捨てられていた割り箸を資源として回収すると同時に、可燃ごみの削減につなげるため、日吉キャンパスの学生食堂「グリーンズマルシェ」に使用済み割り箸の回収ボックスを設置しました。回収した割り箸は、段ボールに詰めて一般社団法人日本の森林のみらい(<https://japan-forest.com/>)に郵送し、割り箸リサイクルプロジェクトによって、紙として生まれ変わります。2025年1月14日～2月20日の期間で、約7400本(3700膳)を回収することができました。また、塾生会議×師岡小プロジェクト「探求活動—師岡小版SDGsを实践しよう!—」とのコラボイベントも実施し、慶應義塾内でのポスター制作事例を基に、SDGsの促進を慶應義塾内で終わらず地域全体に広げることを目的として、師岡小学校6年生の児童と同じ目線でSDGsのポスター制作を行いました。



割り箸回収を呼び掛けるポスター



回収された割り箸